

大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行=財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06(6876)8800 FAX06(6876)8686 http://www.iiclo.or.jp

子どもの育成を支える児童文化施設として

人材の育成を実現し支えるには 地域社会や家庭の教育力と、行政による その基盤の構築・強化が不可欠です。



財団法人大阪国際児童文学館
理事長
松居 直

明治維新前後、西日本における政治勢力と大阪の経済力は、その先見性と実行力と相まって、日本の封建体制からの脱却と近代化にめざましい役割を果たしました。その後も大阪を中核とした産業と社会構造の充実、交通と情報体制の発展は、都市の現代化と国際化を促すとともに、アジア地域との交流の推進力となりました。さらには、教育や保育、学術文化の面での充実とともに、芸術や芸能分野でも主導的な役割を果たしてきました。

政治も経済も産業もそれを支え発展を促すのは究極的には人の力に盡きます。それには人間性と創造力豊かな、なによりも精神性と知性をしっかりと身につけた人材の育成が鍵です。それを実現し支えるのは地域社会と家庭の教育力で、行政が子育ての基盤をいかに構築し強化するかにかかっています。

大阪府は1984年5月5日のこの日に、大阪府立国際児童文学館を設立しました。これは大阪府が子育てについて国際的な広い視野に立ち、教育と文化に対して洞察力のある歴史認識をもって、ゆたかな未来を実現できる子どもの育成を支える第一級の児童文化の施設を創設したということであり、国内外から高く評価されました。

その後、四半世紀に渡り、資料の網羅体系的な収集・保存・公開、子どもの本と読書活動に関する実践的な研

究、国際交流、府民へのきめ細やかな子どもの読書活動支援などを行って参りました。しかし、大変残念なことに、設立者である大阪府によって、当館は廃止・府立中央図書館に移転、財団への事業委託も打ち切りの方針が示されています。

私は国際児童文学館が独立した機関として現在の機能を維持していくことが、その貴重な文化財を保存し、発展させ、大阪のみならずわが国の将来を担う人材育成の象徴となると確信しております。当館としては、引き続き現地存続の理解が得られるよう全力を尽くしていく所存です。今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



07年11月18日に、第11回国際グリム賞授賞式および記念講演会が行われました。国際グリム賞は、財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校

ZOOM UP 第11回! 国際グリム賞 ジョン・スティーヴンス博士が受賞

同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。
第11回受賞者は、児童文学研究における理論派として活躍するジョン・スティーヴンス博士(オーストラリア・マコーリー大学教授)に贈られました。講演会のテーマは「グローバルに児童文学を語ろう―世界的視野(グローバル)と地域性(ローカル)―」で、約70名が参加しました。

第12回手塚治虫文化賞 特別賞受賞

四半世紀にわたる貴重なマンガや児童書の横断的な収集と研究を評価
日本のマンガ文化に大きな足跡を残した手塚治虫の業績を記念する手塚治虫文化賞(朝日新聞社主催)の第12回特別賞を受賞しました。特別賞は、マンガ文化の発展に貢献した個人・団体が対象で、当館は四半世紀にわたる貴重なマンガや児童書の横断的な収集と研究が評価されました。6月12日に東京会館で開かれ、秋山朝日新聞社からアトム事務局長(左)と朝日新聞社提供の画像(右)に贈呈式に出席し、鉄腕アトムのブロンズ像と賞状、賞金が贈呈されました。当館では、開館前の1981年に手塚治虫氏にご講演いただきましたが、深い縁を感じます。今回の受賞を手塚氏からの激励と受けとめ、さらなる努力を重ねてまいります。



なお、賞金を活用して、ご自宅に「手塚治虫コーナー」を設置し、日本はもちろん、世界各国で出版されている手塚マンガを貸出用に用意する予定です。

●国際絵本フォーラム 「世界の絵本の現在」

07年8月、国際児童文学学会がアジアで初めて京都で行われ、世界各国の子ども本の研究者が集いました。当館では、その中からオーストラリア・カナダ・デンマーク・韓国・英国等全11カ国の児童文学研究者に、その国で最も注目している絵本を紹介していただく国際絵本フォーラム「世界の絵本の現在」(8月28日)を行いました。一人ずつ、スクリーンで絵本を写しながら、内容や魅力、おすすめ理由などをお話いただきました。

海外から14ヶ国67名、国内から102名、計169名の参加がありました。当日は、参加国の翻訳絵本とアジアの絵本を展示しました。なお、海外からの参加者には、終了後、館内見学会内と日本児童文学史のミニレクチャーを行いました。

●「タイの絵本」をテーマに3企画実施
①報告集「タイの絵本」の作成
「絵本」や「タイ」に対する理解を深め、研究を促進するため、4本の報告と座談会の記録を日本語・タイ語・英語の3カ国語で出版しました。

②タイの絵本の貸出用セット作成
タイ絵本の魅力を伝えるため、4つのテーマに沿ったタイの絵本66冊を選出し、解説付きリストを作成しました。

③子ども向きおはなし会の開催
●キワニス文庫報告
07年6月19日に大阪キワニスクラブ会長四方大中氏より国際交流を目的とした50万円が当館の北田常務理事に贈呈されました。1982年から寄付をいただいておりますが、07年度は、日本と同じ環太平洋地域であるオーストラリア・ニュージーランドの絵本を104冊購入、ご自宅の貸出図書としていきます。

資料

国際交流事業の「環」として
アジアの絵本貸出セット

05年度より、国際交流事業の「環」として、アジアの絵本セットの作成と団体貸出を行っています。最新の作品から厳選した絵本を、翻訳があるものは日本語版もあわせて無料で貸し出しています。

韓国絵本Aセット(81冊)、Bセット(103冊)、中国語圏の絵本セット(112冊)に加え、新たにタイの絵本セット(65冊)を用意しました。学校での異文化教育の教材や、図書館での展示などにご利用ください。

企画展示と
公共図書館用展示パック

①「台湾絵本の、今」中国語圏の絵本と日本の絵本」/4月1日~29日(監修:中由美子・中国児童文学翻訳家)

古書紹介

A・A・ミルン著「小熊のプー公」
松本恵子訳、新潮文庫、1941年(昭和16年)9月25日



キャラクターとして我が国でも圧倒的な人気を誇る「クマのプーさん」。作者・ミルンの児童文学が日本に伝えられたのは、昭和初年に松原至大が童謡を訳出したのが嚆矢だといふ。

②「茂田井武 没後50年展」/5月3日~7月30日

③「再発見!『講談社の絵本』の漫画世界」/8月2日~10月29日(監修:宮本大人・北九州市立大学准教授・05年度特別研究員)

④「大阪発!子どもの文化!子どもたちはこんな本にかこまれていた」/11月1日~2月12日(協力:浅岡靖典・日本児童教育専門学校専任講師・06年度特別研究員/加藤理・東京聖徳大学准教授)

⑤「ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品展」/3月1日~30日

これまでの展示を元にした、公共図書館用展示パックを貸出しています。「ピーター・パンの世界」、「コラントラスの犬」ネロとパトラッシュのさまざまな姿と、「イギリス生まれの伝承童謡マザーグース」の3つです。

その後新美南吉らによっても訳されたが、幼年童話は昭和15年の石井桃子訳「クマのプーさん」(岩波書店)が初訳。

本書「小熊のプー公」は、石井訳の翌年に刊行されたもので、比較的早い訳書である。石井訳に比べて見劣りがするといわれ、ミルン作品の訳文としては高い評価を得ていないが、ミルンのナンセンスやユーモアを基本的には生かしており、言論統制下の完訳としては貴重である。松本は明治34年生まれ、翻訳家として早くから英文学を学び、児童文学ではオルコットやウエプスターの翻訳をしたことでも知られる。ミルン受容を考えるうえで重要な冊である。



「大阪発!子どもの文化! 子どもたちはこんな本にかこまれていた」展

公共機関等に当館資料を
展示用に特別貸出

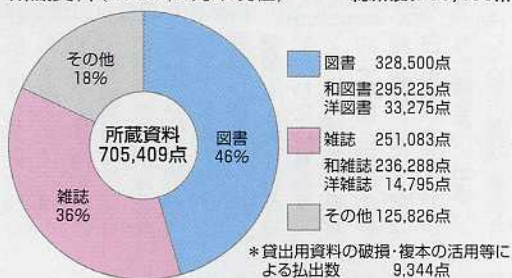
- 公共機関等の展示などに、当館資料全44件2071点を貸出しました。
- ①「第22回現代絵本作家原画展」/東広島市立美術館/5月~9月/「ハルとカミナリ」原画全13点
 - ②「武部本郎展」紙芝居からSFアイトまで」/弥生美術館/6月~10月/街頭紙芝居「海の鷹」ホークほか全32点
 - ③「我がウイナス」初恋の女性木本威子と新美南吉」/新美南吉記念館/7月~9月/新美南吉差出河合弘宛葉書全1点
 - ④「のりもの絵本の世界」展/交通科学博物館/7月~9月/「でんしやきしゃ」ほか全20点
 - ⑤「東京国際アニメフェア2008」/08年3月/手塚治虫「怪人コロンコ博士」ほか全6点

That's IICLO

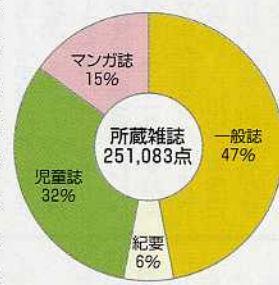
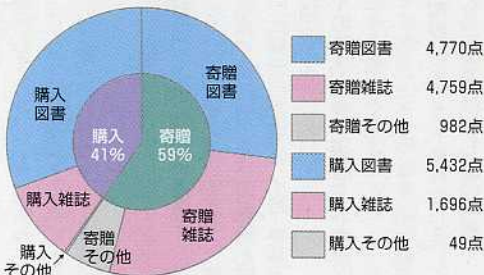
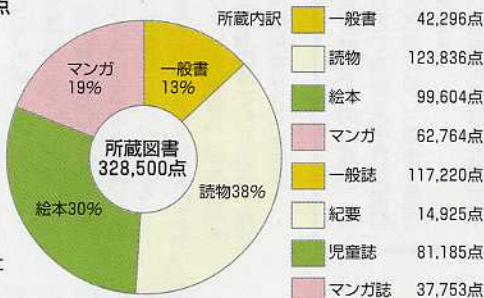
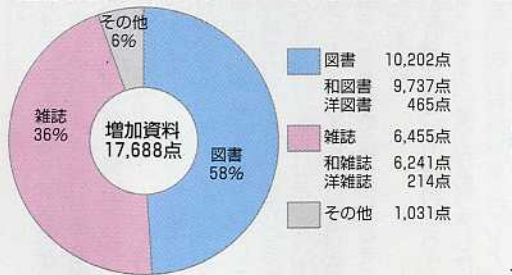
所蔵資料統計平成19年度(2007年度)

所蔵資料(2008年3月末現在)

総点数705,409点



増加資料(2007年4月~2008年3月)総点数 16,086点



寄贈点数 10,511点

購入点数 7,177点

研究

子ども向け図書検索システム開発研究

多くの方に利用いただいている「本の海大冒険」(子ども向け図書検索システム)の成果と課題をふまえた新たな読書活動支援システム「ほんナビきっず」を開発いたしました。このシステムでは、公共図書館の所蔵検索とのリンク対応、物語キーワード体系表の低学年向き構築、読後感などを検索軸に採用した新たなナビゲーションシステムの開発を骨子としています。アドレスは、<http://www.honnabi.jp/>。

この研究は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、株式会社通東北システムとの共同研究です。

特別研究員制度

05年度より、外部の研究者に当館の資料を活用して研究を深めていただく特別研究員制度を設けています。新たなネットワークを築くとともに、その研究成果を当館の展示の企画運営、講演会の開催、紀要への論文掲載等で還元していただいています。07年度の特別研究員は次の方です。

竹内オサム(同志社大学社会学部教授)／研究テーマ「幼年マンガの再評価」
 成果還元＝展示監修「手塚治虫と幼年漫画の歴史」(08年8月～10月予定)

出版物

- ◆「国際児童文学館紀要」第21号
- ①土居安子「少年世界」(博文館)の読者投稿欄の考察「明治期の読者がみた「少年世界」」
- ②遠藤純「少年」(時事新報社)細目3
- ③ジョン・ステイヴンス「グローバル、ローカル、グローバル」児童文学と現代の生活文化の諸相

- ④John Stephens「Global-local: Children's Literature and Everyday Life」
- ◆「世界の絵本の現在 タイの絵本」(編集長＝三宅興子)
- ①「21」における私の仕事と手法
- チーワン・ウイサーサ(タイ絵本作家、編集者)
- ②タイの子どものための絵本 編集者の経験から
- ボンアン・ニヨムカ・ホリカワ(子どものための本財団事務局長)
- ③タイではタイ流に「フレオファンデック出版の編集者としての7年間」
- ラビーバン・パタナウエート(前フレオファンデック出版編集者)
- ④タイの子どもの読書活動推進運動と絵本出版への影響 タイの人々の活動を中心に
- 竹内より子(タイ児童文学研究者)
- ⑤座談会「タイの絵本」
- 竹内より子(タイ児童文学研究者)／鈴木穂波(当館専門員)／後小路雅弘(九州大学大学院人文科学研究院教授)／三宅興子(梅花女子大学名誉教授)

明治期児童雑誌研究プロジェクト

当館が所蔵している貴重な明治期の児童雑誌を研究し、内容目次データベースを作成するため、館外の研究者の協力を得て、当館職員と共同でプロジェクトを立ち上げました。07年度は、科学研究費助成を受けて作成した「少年世界」の内容目次データベースを活用して、「少年世界」についてジャンルや欄名、広告や挿絵、読者投稿欄などから研究を行いました。

08年4月23日より、「おはなし会データベース」を公開しています。このシステムは、集団の子どもの絵本を読んだり、おはなしを語ったりするグループへのサポートを目的に開発したものです。

おはなし会のテーマ、参加人数、対象年齢、場所、プログラム内容等さまざまな項目から実践事例を検索、閲覧することが出来ます。また、自分達のグループの情報を登録することで、プログラムの実践記録集を作成することもできます。



当館ホームページのリニューアル

08年4月1日からホームページのデザインを刷新しました。

今回のリニューアルでは、ホームページ右側にサイトメニューを配置し、これまでは見つけにくかった情報を分類することで探しやすとしたほか、トップ画面に所蔵資料検索の簡易窓を用意し、ダイレクトに検索していただけるようにしました。

当館の貴重な子どもの本の表紙と内容を紹介するページ(読み込む)に情報が更新され、違う本が表示されます。を組み込むなど、訪れるたびに楽しんでいただけるようにしています。

おはなし会データベース公開



おはなし会をするグループへのサポートを目的に開発されたシステム

システムは、図書検索サイト「本の海大冒険」と連携しており、子どもたちが書いた本のオスメや人気ベスト10、作家の動画メッセージなどを見ることが出来ます。書名・著者名・出版年・ISBNなどの書誌情報や、「まほう」「とむだち」などの当館独自キーワードで本を検索することも出来ます。ぜひ、おはなし会等に活用ください。

(07年度子どもゆめ基金助成事業)

振興

第5回子ども本フェスティバル

07年10月27日(土)から28日(日)まで「第5回子ども本フェスティバル in おおさか」が、大阪ビジネスパークツイン21で開催されました。

このイベントは、活字文化推進会議や日本児童図書出版協会が主催し、子ども本の振興を目的としたイベントです。当館も第1回より「本の海大冒険」などの図書検索システムを出展・参加してきました。

今回は、前回に引き続き「よんでみよう」出展としてみょう「アジアの絵本」をテーマに、松田電器産業(株)の協力を得て、台湾や韓国をはじめとするアジア絵本を紹介するブースを設けました。

また、(株)富士通東北システムスの協力のもと、研究開発中の子ども向け図書検索システム「ほんナビきっず」を公開。多くの方にご利用いただきました。



ニッサン童話と絵本のウランプリ

日産自動車(株)の協賛を得て、当財団が主催しているニッサン童話と絵本のウランプリは、童話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登竜門ともなっており高い評価を得ています。

第24回の応募総数は、童話23,666編、絵本6,996編で、厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、08年3月8日に日産横浜倶楽部において表彰式を行いました。大賞受賞作品は、08年12月頃にBL出版から出版されます。

- *童話の部
- 【大賞】「春になったら開けてください」 増井邦恵(兵庫県)【優秀賞】「おいしい手紙」つかはらみさ(埼玉県)／「おめいわくくたさい」ながいくみ(岡山県)／「お母さんの宝物」 遠山裕子(愛知県)
- *絵本の部
- 【大賞】「モイモイのポッケ」H@L(大阪府)【優秀賞】「ピピ・ダンス」高橋キョウシロウ(東京都)／「南大東島」創作民話 あめのこたろ(宮城)／「あまただし」(沖縄県)／「ニック・チャコール」小島優(愛知県)

団体利用プログラム

より多くの子どもが読書の楽しさを味わえるように、当館の専門職員とボランティアが協働し、研究や実践の成果を生かしたプログラムを無料で提供しています。

これは、保育所・幼稚園・小中学校を対象にした、素話・絵本・ビデオ・本の紹介ワークショップなど、子どもたちが本や物語の世界にふれるプログラムです。07年度は、31団体、約2,200人の子どもたちに利用いただきました。

大阪府子ども読書活動推進事業

大阪府子ども読書活動推進連絡協議会(※)では、文部科学省の助成を受けて以下の事業を行いました。

- ①「豊かな子どもの読書活動をめざして」平成19年度報告書(08年3月)の発行
 - ②講演会「YA作品を書くこと」08年3月4日／講師：笹生陽子(作家)／08年度子どもの読書活動報告会と交流会の開催／ホテルアウイナ大阪
 - ③島本町におけるモデル事業「乳幼児と絵本」講座「みんなでゆつたり子育て」遊びことは絵本(12月15日、08年1月28日)／島本町立図書館
 - ④自然観察学習館と連携したモデル事業「へんてこ森へ行こう」11月23日
 - ⑤講座「絵本を読む10代の子どものために」9月25日、10月2日／大阪府立中央図書館、当館
 - ⑥オーサービジット／08年1月31日、講師：小森香折(作家)／豊中市立第八中学校
- ※構成員：大阪府教育委員会／大阪市教育委員会／大阪府立中央図書館／大阪市立中央図書館／大阪府教育センター／大阪市教育センター／大阪公共図書館協会／大阪府学校図書館協議会

大阪市学校図書館協議会／学校図書館を考える会・近畿／大阪府子ども文庫連絡会／和泉市立和泉図書館／河内長野市立図書館／財団法人大阪国際児童文学館事務局

講座・講演会

- ①「紹介と解説2006年に出版された子どもの本」講師：西村寿雄(科学読物研究会)／当館職員／4月27日(29日)／参加者247名
- ②児童文学講演会「こどものとも」のあゆみPARTⅡもつとひろがる絵本の世界」主催：大阪国際児童文学館を育てる会／共催：当財団／講師：松居直(福音館書店相談役・当財団理事長)／6月3日／参加者135名
- ③国際講演会「多文化社会における児童書」児童サーピス講師：パトリシア・オルダナ(国際児童図書評議会会長・カナダの編集者)・通訳：石川晴子(関西大学非常勤講師)／7月9日／参加者28名
- ④おはなしボランティア支援講座「世界の昔話の魅力をさぐるPARTⅡ」(3回講座)共催：日本学術振興会・人文社会学振興プロジェクト研究事業／参加者94名
- 第1回「ロシアの昔話と語り手たち」講師：齋藤君子(口承文芸研究家)／7月5日
- 第2回「インド」神話の舞台を旅して」講師：長崎広子(大阪大学)／11月20日
- 第3回「変わりゆくメキシコの神話」講師：山森靖人(関西外国語大学)／11月27日
- ⑤「丸山昭さんと読む『講談社の絵本』の子ども漫画」講師：丸山昭(元講談社編



集者：元講談社社友会会長)・宮本大人(北九州市立大学准教授・元当館特別研究員)／9月15日／参加者42名

⑥講座「絵本編集者に絵本作りを聞く『私のつくった絵本』講師：宮崎励(学習研究社編集者)／参加者25名(子どもゆめ基金助成事業)

閲覧室

入室者数4063名／閲覧冊数3万5934冊／複写枚数4万8006枚／レファレンス件数819件

複写枚数が年々増加し、貴重な資料を多くの方にさまざまな用途で活用していただいています。新刊コーナーでは、過去1年間に発行された新刊の児童図書および関連図書を開架しています。

N34中継

こども室行事の全回数は54回、参加者数は2374名でした。おはなし会は30回行い、うちボランティアの参加は19回、テーマは「春・月や星」「贈り物」「不思議な生きもの」などでした。参加ボランティアを対象に、4回のスキルアップ講座と事前研修を行いました。

他に、「物語体験ワークショップ」(8回)「アニメーションを作ろう」(講師：小谷佳津志)「ことばあそび大会」「街頭紙芝居」(出演：三田会)「おはなしクイズに挑戦」おたのしみ会「カルタとり大会」「大型ビデオ上映会を実施しました。加えて次の行事も行いました。

- ◆夢の池劇場
- 「バオバブの木の下で」西アフリカおはなし村から」出演：江口久(国立民族学博物館名誉教授、河辺知美)／コシ(太鼓演奏家)／5月3日
- 「世界のアニメーション」かぼのティリーネック」うるさいノラ」他2本を上映。協力：アットアームズ、ヤマハ・ミュージック・メディア／5月4日

「火よつびのごちそうはひきがえる」小動物の登場する物語を楽しむ」ワークショップ講師：土居安子(当館主任専門員)②人形劇上演」人形劇団京芸／5月5日(子どもゆめ基金助成事業)

「おはなしモノレール」実施



08年3月15日(土)、貸切モノレールに乗って絵本やお話を楽しむというユニークな催しを開催しました。8倍の抽選で選ばれた親子120名が、大阪モノレールの万博記念公園駅から4両に分かれ乗車、太陽の塔など窓外の景色を眺めながら、普段は入らない千里中央駅引込み線に入り、折返し後「おはなし」を開始。車内で当館職員とボランティアによる昔話の語りや乗り物の絵本などを楽しみました。彩都西駅に到着後、彩都インフォ・ミュージアムで、当館ボランティア人形劇サークル「はれっこ」の人形劇「舌長ばあさん」を観賞。参加者に協賛各社からの記念品(ランチボックス・トートバッグ・万博公園入園券)をお渡ししました。

「火よつびのごちそうはひきがえる」小動物の登場する物語を楽しむ」ワークショップ講師：土居安子(当館主任専門員)②人形劇上演」人形劇団京芸／5月5日(子どもゆめ基金助成事業)

「へんてこ森へいこう」場所：自然観察学習館／共催：日本万国博覧会記念機構／11月23日(文部科学省助成事業)

◆作家を招いた行事

「ドイツのアニメーションとワークショップ」むかしむかしあるところへ」講師：マルチナ・ゴッツァ、ザビーネ・シヨルツ(映像作家)／10月6日(協力：大阪ドイツ文化センター)

「神沢利子さんの物語世界を楽しもう」講師：神沢利子(作家)／3月28日(子どもゆめ基金助成事業)

◆「東京国際アニメフェア08」開催

08年3月27日(木)から30日(日)まで、東京ビッグサイトにて「東京国際アニメフェア2008」が開催されました。4日間で、総計260社(うち海外79社)

が展覧し、約12万人が来場しました。このイベントは、毎年春に開催される世界最大級のアニメ総合見本市で、石原慎太郎・東京都知事を委員長とする東京国際アニメフェア実行委員会が主催しています。アニメだけでなく、関連の深いマンガも視野に入れ、当館をはじめ貴重なマンガを所蔵する全国の施設や、マンガ家の個人記念館などがブースを出展しました。

編集後記

27号をお届けいたします。07年度も多くの皆様のご支援をいただき、貴重な資料を収集、それらを活用した事業を行うことができました。御礼申し上げます。

なお、本文中の敬称についてはすべて略させていただきます。ご了承ください。ご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。